

お礼状

認定 NPO 法人 ゆめ風基金
代表理事 牧口一二

「ゆめ風基金」は、発足して 25 年になりますが、亡くなられた永六輔さん（初代・呼びかけ人代表）をはじめ、小室等さん（現・呼びかけ人代表）など多くの著名人や、金儲けのみに走らない会社（西の近畿ろうきん、東のカタログハウス社）から絶大なご支援を受けることができました。おかげさまで今までに寄せられた基金によって 5 億 5 千万円余りが全国の障害者団体、そしてまた海外の障害者団体に届けることができています。

お蔭さまで、災害に遭い困っておられた人たちからは、驚かれ、喜ばれ、感謝され、「このご恩は決して忘れません。有効に使わせていただきます。みなさまによりしくお伝えください」と、心からの声。感謝され活用されています。今回も被災地の「助けて」という声に応え、多くの皆さまから募金のご協力をいただき、ほんとうにありがとうございます。

いま、新型コロナウイルスは小さな小さなウィルス菌ゆえに、地球上のあらゆる国々が震えています。日々の暮らしをそれぞれにコツコツと営んでいる人たち、まもなく 80 億人に達しようとする、その 1 つひとつの生きる命が危機を感じています。

この見えないウィルス菌の繁殖も自然災害の 1 つといえるでしょう。私たち「ゆめ風基金」は阪神淡路大震災での体験、どうしても後回しにされてしまう障害者の立場から活動を始めました。こうしたパニック状態になると、まことに悲しいことですが、どうしても忘れられたり、後回しにされてしまう人たちが出てきます。障害者であり、高齢者であり、（ある部分で子どもたちも）。そのほか社会的に弱い立場（非正規で働くなど）の人たち。

多くの命が危うくなった時、トリアージという 1 人でも多くの命を救おうとする選別が行われるのですが、どのような状態の命が長らえるかの確たる立証はなく、高齢者や障害者など社会的に弱い立場の人たちは不利になってしまいます。

「近畿ろうきん」と「ゆめ風基金」は、高齢者や障害者など社会的に弱い立場の人たちの「助けて」という声に応える名コンビとして、これからも活動を進めていきたいと思えます。引き続き、応援よろしく申し上げます。